

各 位

唐津農林事務所東松浦農業振興センター長

稲作情報第3号（普通期水稻）

1. 気象概要（アメダス：唐津地点）

月	半旬	平均気温 (℃)		最高気温 (℃)		最低気温 (℃)		降水量 (mm)		日照時間 (h)	
		平年	R6	平年	R6	平年	R6	平年	R6	平年	R6
6	1	20.9	19.4	25.2	24.8	17.3	15.5	18.2	0.0	27.3	47.5
	2	21.4	21.5	25.4	26.6	18.2	18.4	27.2	20.0	24.5	21.7
	3	21.9	24.1	25.7	30.1	19.0	20.0	40.5	0.0	22.3	47.5
	4	22.4	22.9	26.1	28.6	19.6	19.1	54.5	102.0	20.6	27.5
	5	23.0	24.3	26.6	27.3	20.4	21.6	65.1	39.0	17.8	8.3
	6	23.9	23.8	27.3	26.2	21.3	21.9	73.6	74.5	14.8	0.5
7	1	24.7	27.8	28.0	31.1	22.2	25.4	87.3	93.5	15.2	28.3
	2	25.3	29.3	28.7	32.7	22.8	26.8	92.9	7.0	19.9	39.4
	3	26.0	24.7	29.6	28.1	23.2	22.8	74.1	110.5	26.4	6.0

・6月17日の梅雨入り以降6月下旬にかけて降雨・曇天が続いた。降水量は平年並みであったが、6月5～6半旬の日照時間がかなり少なくなった。

・7月1半旬に降雨があったが2半旬にかけては好天となり気温は高く推移した。3半旬になると断続的な降雨が続き日照時間が少なくなっている。

2. 生育状況（調査日：7月16日）

項目 品種 (設置場所)	年次	草 丈 cm	茎数 本／m ²	主 稈 出葉数 L	葉色 SPAD	概 要
コシヒカリ 唐津市厳木 町天川 5/17移植 標高 650m	本年値	80.3	341	11.0	43.8	・草丈は高い ・茎数は少ない ・出葉は遅い ・葉色は濃い
	平年値	73.3	417	11.7	39.9	
	平年比	110	82	-0.7	+3.9	

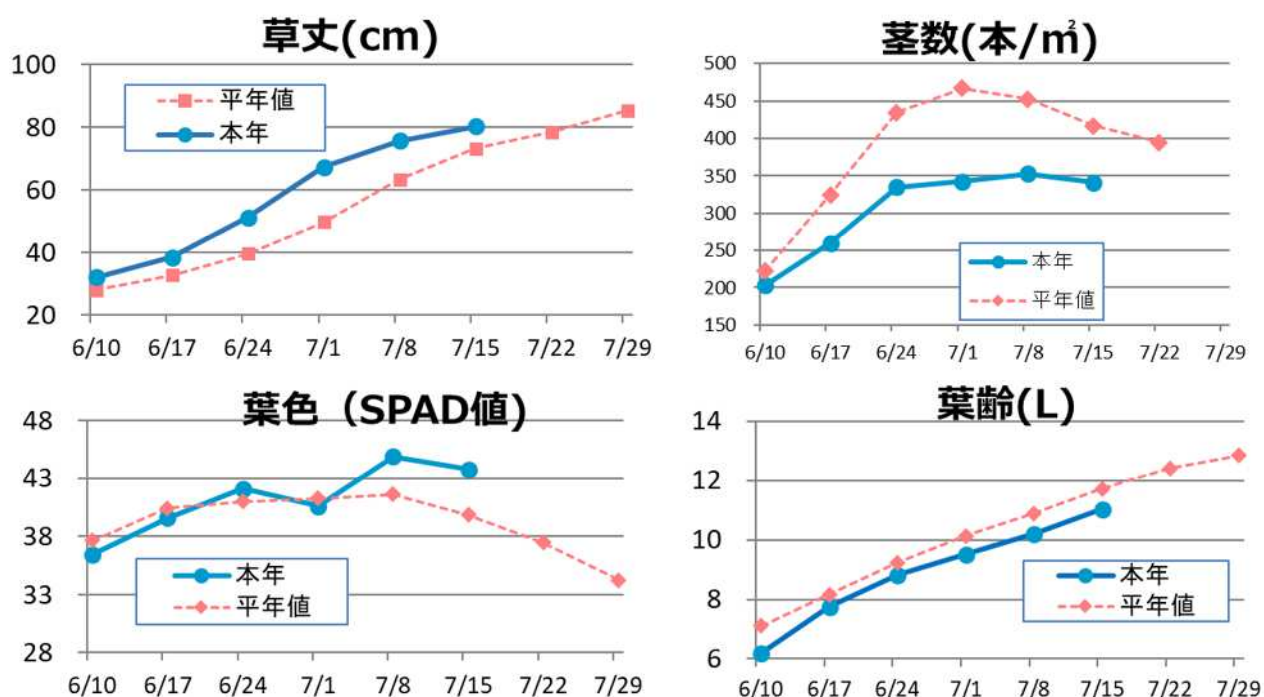
項目 品種 (設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	主 稈 出葉数 L	葉色 SPAD	概 要
夢しずく 唐津市相知 町伊岐佐 6/12 移植 標高 70m	本年値	58.8	273	9.9	40.5	・草丈は高い ・茎数は少ない ・出葉はやや早い ・葉色は平年並み
	平年値	52.9	310	9.2	40.6	
	平年比	111	88	+0.7	-0.1	
項目 品種 (設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	主 幹 出葉数 L	葉色 SPAD	概 要
さがびより 唐津市相知 町相知 6/21 移植	本年値	38.7	236	9.0	41.4	・草丈は低い ・茎数は少ない ・出葉はやや遅い ・葉色は薄い
	平年値	47.4	413	9.9	43.6	
	平年比	82	57	-0.8	-2.2	

(1) 山間早植え

作況圃の「コシヒカリ」は、5月14日に移植された。移植後曇天が続き生育が抑制されたが、5月中旬から6月初めにかけて天候が回復し好天が続いたことから、分けつの発生も盛んとなり生育は回復した。6月下旬から7月2半旬の断続的な降雨による日照不足で葉色は濃く、草丈は高く茎数は少ない状態で推移している。

作況圃では、孵化直後のウンカ類、コブノメイガ幼虫が確認された。いもち病の発生は見られない。

◎コシヒカリ作況圃の生育グラフ(厳木町天川)

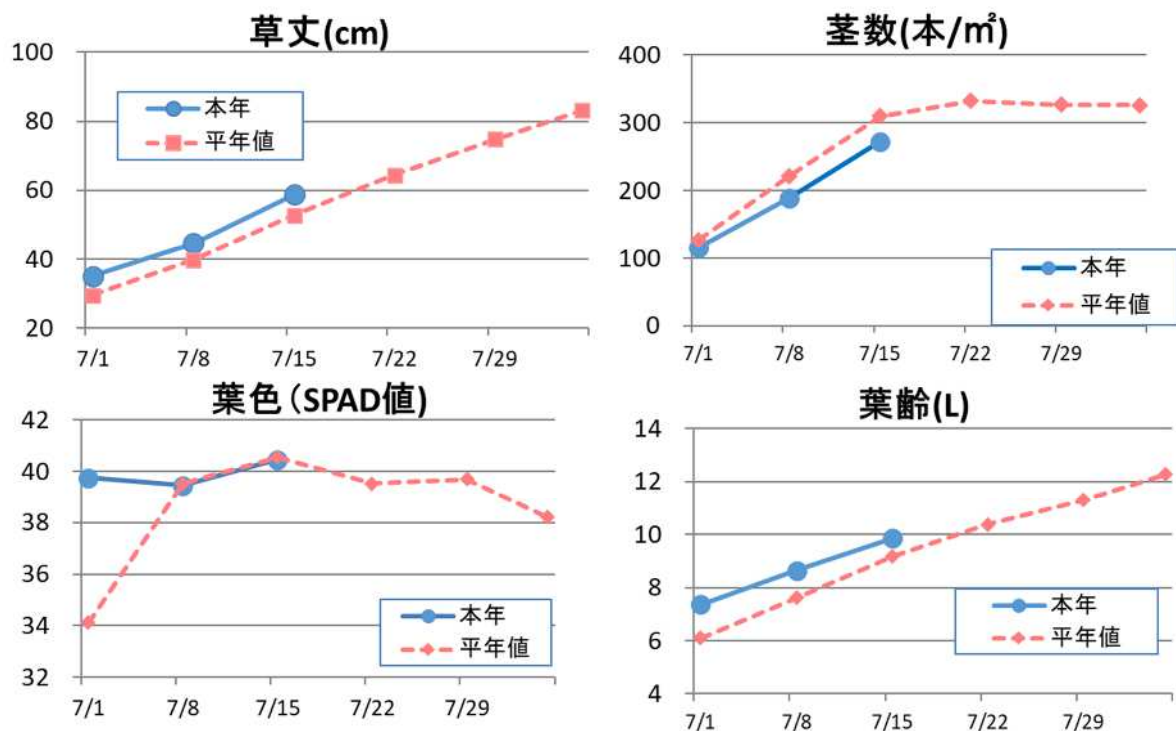


(2) 普通期水稻

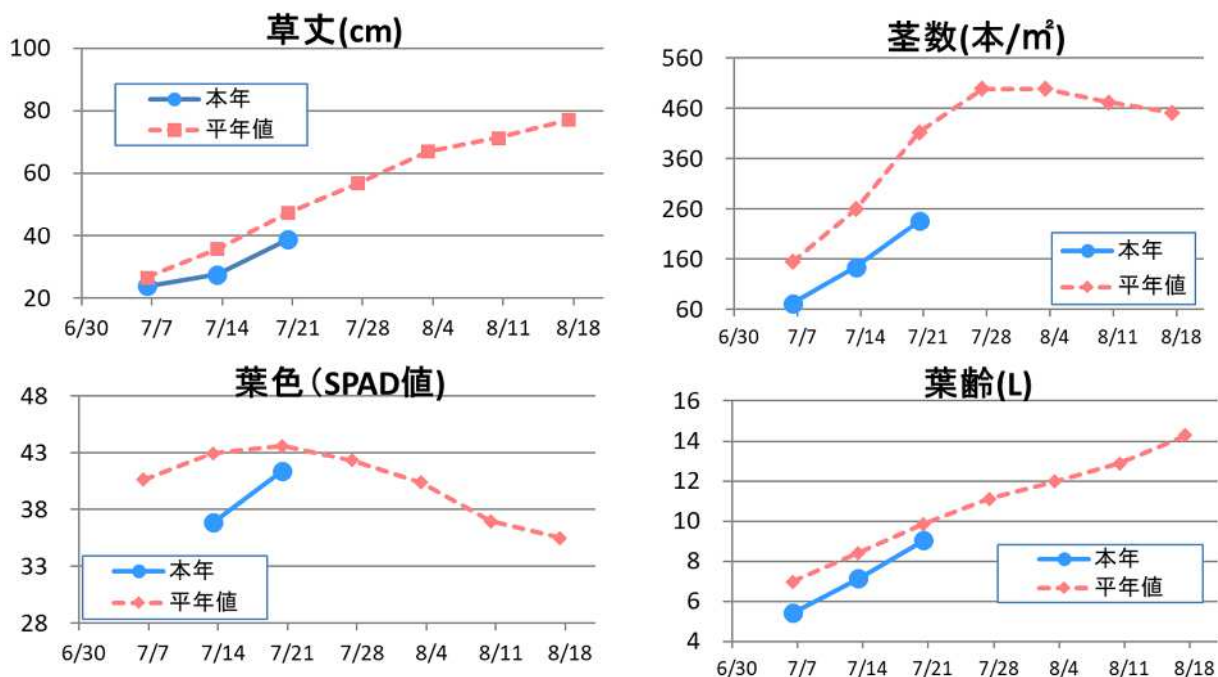
作況圖の夢しずくは移植後の好天により生育は進んだが、6月下旬から7月3半旬にかけての降雨・曇天の影響で茎数は少なくなっている

さがびよりについては、移植期にあたる6月5～6半旬の長雨で日照不足となり初期成育が抑えられ、茎数が少なく、出葉速度も遅くなった。7月3半旬になり出葉速度は速くなり茎数は少ないが生育は回復している。

◎夢しずく作況圖の生育グラフ(相知町伊岐佐)



◎さがびより作況圖の生育グラフ(相知町相知)



3. 今後の管理

(1) 山間早植え

①栽培管理

- ・コシヒカリの現在の生育ステージは幼穂形成期～減数分裂期となっている。
- ・中干し後、軽く足跡がつく程度に固まった圃場では間断灌水を行う。
- ・幼穂形成期から穂揃期はイネが最も水を求める時期であるため、浅水管理とする。

②病虫害管理

- ・本年はトビイロウンカの飛来が連続しており、多発生が懸念される。6 ページの防除資料や発生予察情報、圃場の発生状況を参考に適期防除に努める。
- ・「いもち病」の病斑が見られる場合は、地域の栽培暦に従って速やかに防除を行う。
特に上位葉に病斑がある場合は穂いもちが懸念されるので出穂前の防除を行う。
ただし、特栽培圃場では、農薬成分カウント数に注意する。
- ・カメムシ対策を兼ねた畦畔除草を行う場合には、本田防除前に行うこと。

(2) 普通期水稻

①栽培管理

1) 6月上旬に移植された「夢しずく」は幼穂形成期に入るので、穂肥診断基準に基づいて穂肥を施用する。

2) 6月中旬以降に移植された「夢しずく」は茎数の確保が進んで有効分げつ決定期から最高分げつ期となるので中干しを実施する。

有効茎数 20 本/株程度が確保されたほ場では中干しに入る。(草丈目安概ね 50cm)

【中干しの目的】

- ① 無効茎の発生防止や下位節間の伸張防止
- ② 窒素制限による生育量の適正化
- ③ 有害物質の除去及び土壌酸化による根の健全化
- ④ 地耐力を高め倒伏を防ぐ

「さがびより」は引き続き浅水管理を行い、分げつ促進と茎の充実を図る。

- ・一部圃場ではスクミリンゴガイの食害を防ぐ目的で過剰な落水を行い、田面が露出してひび割れが生じている。このような圃場では適宜通水を行い、茎が硬化したら浅水管理に移行する。
- ・また上記圃場で除草剤による薬害が見られたが、生育は回復してきている。

②夢しずく穂肥診断

夢しずくは7月中旬以降穂肥施用の時期となってくる。

幼穂長が1mm確認出来たら下記の穂肥診断基準に基づいて穂肥を施用する。

1)「夢しずく」の穂肥診断基準(県基準)

幼穂形成 始期草丈	葉色		施用時期		施用量
	群落	SPAD	出穂前	幼穂長	窒素成分 kg/10a
73cm 以下	3.0 以下	34 以下	20-22	1mm	3.0
	<u>3.0-3.5</u>	<u>34-38</u>	<u>18-20</u>	<u>2mm</u>	<u>3.0</u>
	3.5-3.8	38-39	15-14	10-15mm	1.5-2.0
	3.8 以上	40 以上	施用の場合止葉抽出終了まで		1.0 以下
73-79cm	3.0-3.5	34-38	18-20	2mm	1.5-2.0
	3.5-3.8	38-39	15-14	10-15mm	1.0
	3.8 以上	40 以上	施用しない		0.0
80cm 以上	原則として施用しない				0.0

草丈は幼穂形成始期(1mm)を基点に前後1日当たり1cm増減する。

2)夢しずく出穂前日数と幼穂伸長

出穂前日数(日)	主稈の幼穂長(mm)	
-27	0.1	← 幼穂形成期
-23~-20	0.3~ 0.8	
-20~-18	1~ 2	← 穂肥施用時期の目安
-18~-16	3~ 5	
-15~-12	5~80	
-12~-10	80~100	
-7~0	100~200	

③病虫害管理

・いもち病の発生は今のところ確認していないが、今後の長雨で発生が予想される。置き苗はいもち病の発生源となるため早急に撤去する。

・本年はトビイロウンカの飛来が連続しており、多発生が懸念される。6ページの発生予察情報に基づいた発生予測資料を参考として、払い落としにより圃場の発生状況を確認して適期防除を行う。

・コブノメイガは地域ごとで発生に差がある。発生が多い圃場は発蛾最盛期を確認し、その1週間後の孵化揃期に薬剤防除を行う。適期防除が難しい場合は、パダン粒剤の利用も検討する。

・雑草発生が早くから見られる。特に「コナギ、ホタルイ、ノビエ」について発生が多い圃場では、中後期除草剤の対応に遅れないようにする。

なお、特裁申請している圃場では農薬成分カウント数に注意する。

・カメムシ対策を兼ねた畦畔除草を行う場合には、本田防除前に行うこと。

イネウンカ類・コブノメイガのトラップ捕獲状況

(佐賀県農業技術防除センター情報を改編)

表1 イネウンカ類・コブノメイガのトラップ捕獲状況(2024年)

月	日	トビイロウンカ					セジロウンカ					コブノメイガ									
		佐賀県		長崎県			佐賀県		長崎県			佐賀県					長崎県				
		佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市	佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市	佐賀市	佐賀市	神埼市	伊万里市	白石町	武雄市	諫早市	諫早市		
		ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップA	ネット トラップB	ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップA	ネット トラップB	フェロモン トラップA	フェロモン トラップB	粘着トラ ップ(20W 蛍光灯)	粘着トラ ップ(20W 蛍光灯)	粘着トラ ップ(20W 蛍光灯)	粘着トラ ップ(20W 蛍光灯)	フェロモン トラップA	フェロモン トラップB		
6月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	2日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	3日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	4日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	5日	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	6日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	8日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	9日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	10日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	11日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	12日	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	14日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	15日	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	16日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	17日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	18日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	19日	0	1	0	0	0	1	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	20日	0	3	0	0	0	0	10	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	21日	0	8	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0
	22日	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	23日	0	24	0	0	0	25	66	8	1	1	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0
	24日	0	14	0	0	0	13	92	5	0	2	0	0	0	0	0	0	18	0	0	0
	25日	0	1	0	0	0	0	148	1	0	0	0	0	3	0	0	3	25	3	0	0
	26日	0	9	0	0	0	0	187	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0	0	0
	27日	0	3	0	0	0	2	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	1	0	0
	28日	0	7	0	0	0	0	30	4	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
	29日	0	4	0	0	0	3	31	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	30日	0	13	0	2	0	15	5	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
7月	1日	0	229		0	0	14	88		1	0							2			
	2日	0	41					97													
	3日	1					1														

注1) ウンカ類: 佐賀市のネットトラップは、農業試験研究センターで調査(回収日で集計)。嬉野ライトトラップ(予察灯)は農業技術防除センターで調査。

注2) コブノメイガ: 神埼市、白石町、伊万里市、武雄市は防除員が調査。佐賀市のフェロモントラップは農業試験研究センターで調査。

※長崎県のデータは、長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室提供。

トビイロウンカ発生予測（佐賀県農業技術防除センター情報を改編）

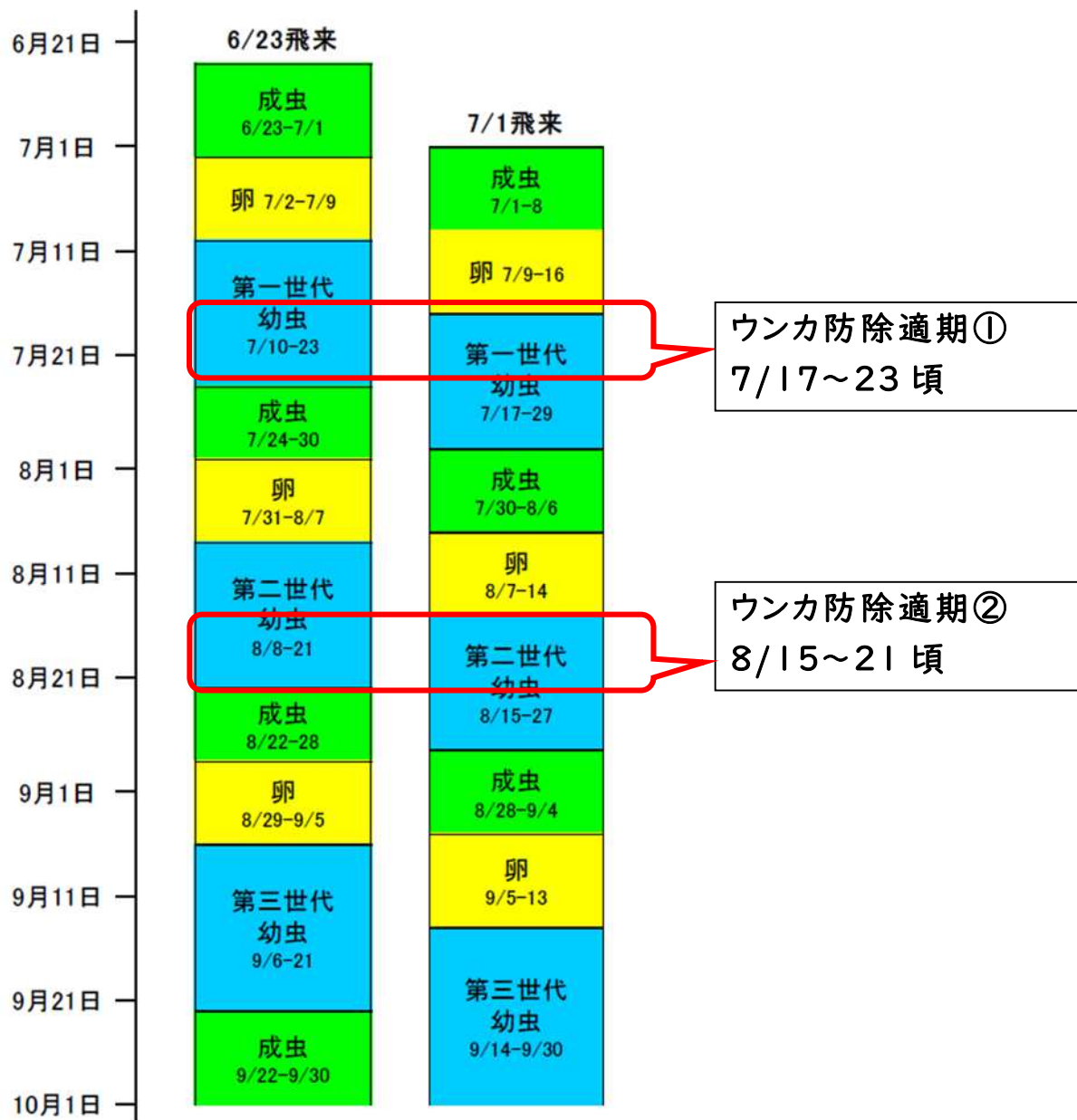


図1 トビイロウンカ各世代の発生予測（第1版、2024年7月4日作成）

1. 6月23日～24日頃（図では6月23日）、7月1日～2日（図では7月1日）の飛来虫を起点とし、トビイロウンカの有効積算温度及び佐賀市川副町のアメダスデータ（7月4日以降は平年値）に基づき作成した。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
3. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

コブノメイガ発生予測（佐賀県農業技術防除センター情報を改編）

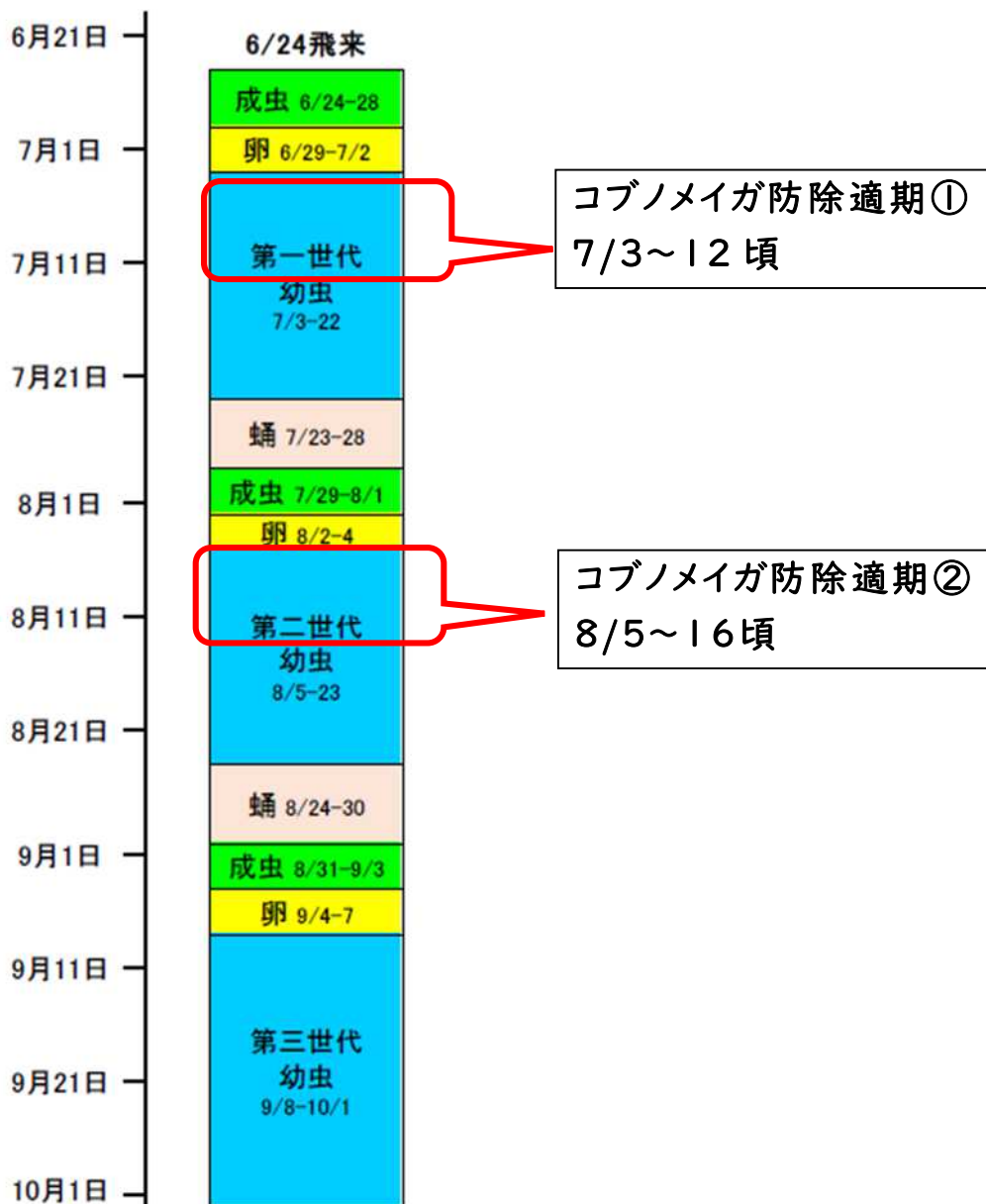


図2 コブノメイガ各世代の発生予測（第1版、2024年7月4日作成）

1. 6月24日～27日頃（図では6月24日）の飛来虫を起点とし、コブノメイガの有効積算温度及び佐賀市川副町のアメダスデータ（7月4日以降は平年値）に基づき作成した。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
3. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

令和6年産 稲作期間気象図 アメダス観測値(唐津)

東松浦農業振興センター

